

## 京大研究所用 Boring の間歇泉作用時の観測表

場 所 熊本縣阿蘇郡長陽村字湯の谷雀地獄のほとり  
 時 昭和15年10月18日—19日  
 観 測 者 中 村 秋 甫・中 原 四 熊

時刻	管口差	備 考	時刻	管口差	備 考	時刻	管口差	備 考	時刻	管口差	備 考
昭和15年 10月18日	攝氏		16.42	930		23.42	960		8.05	605	
12.20	380		.49	960		19日 0.30		茅一回噴騰	.40	550	
.40	450		17.25	-----	茅一回噴騰	2.15	604		9.20	470	
13.10	580		18.45	820		3.10	630		10.30	475	
.40	685		19.25	580		.55	480		11.40	630	
14.20	765		20.45	490		4.05	478		12.05	730	
.50	820		21.30	603		5.15	788		.30	860	
15.10	840		22.45	860		.50	880		.45	920	
.40	870		23.15	902		.55	930		12.53 ---14	65	茅一回噴騰
16.10	895		.30	928		6.00 ---57		茅三回噴騰			

噴 騰 時 刻 (観測期中)			
昭和15年 10月18日	16時49分	17時25分(36)	茅一回噴騰
	23時42分	19日 0.30(48)	茅二回噴騰
19日	6.00	6.57(57)	茅三回噴騰
	12.53	18.05(72)	茅四回噴騰
水 位 (茅一回噴騰后)			
19日	0時45分	管口下 2間	温度 880°C
	0.55	" "	850
	1.40	" 1間	800
水 位 (茅三回噴騰后)			
19日	7時20分	管口下 0.5間	温度 800°C

本間歇泉は挿入した鐵管の最下端の岩壁の邊にSlime がつまるため二ヶ月以上も放置すると間歇活動休止して單に湧泉作用のみとなる。昭和15年10月17日 Slime を掃除して翌18日11時40分23間の深さの温度を測つたら 120°C あつた。16時49分に第1回の噴騰を起し以後19日15時まで合計4回

京大研究所用 Boring の間歇泉作用時の観測表

の噴騰を見た。

此4回の噴騰に就て判明した事は次の通り。

- 1) 泉管の水は大間歇泉の場合と異なり管口から溢出し、管口下1米の温度が $96.0^{\circ}\text{C}$ に達すると噴騰を開始する。
- 2) 噴騰の高さは最高8間、噴騰回数を重ねるに従ひ次第に高さを減ずる（高さは周囲の樹木と比較して地上より目測したので多少の過大視がある）。
- 3) 噴騰継続時間は36分、48分、57分、72分と増加してゐた。
- 4) 休止時間は大約6時間。
- 5) 噴騰休止直後の泉管水位は管口より1,2間低くなる。
- 6) 鐵管挿入の加減で地下冷水の注入を加減して湧泉、間歇泉、噴騰泉の各現象を起させる事が出来る。